

- 1 派遣期日 平成23年11月11日(金)
- 2 研修先 学校名 埼玉県春日部市立粕壁小学校
所在地 埼玉県春日部市粕壁東3-2-19
- 3 研修内容

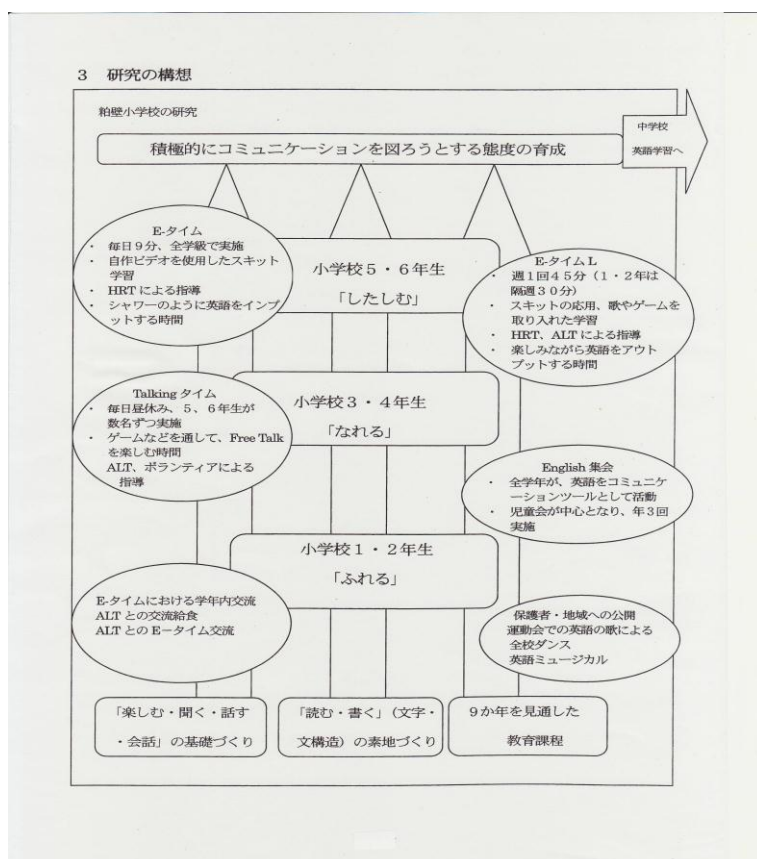
春日部市立粕壁小学校 英会話科研究発表会
研究主題 「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」
～英会話科を通して～

(1) 粕壁小学校における英語活動について

平成9年度から文部省研究開発学校として、平成18年度～20年度は、文部科学省からの研究指定を受け、小学校教育に「英語科」を創設した場合の教育課程、指導方法、評価方法、並びに中学校における英語教育との接続の在り方について研究を行い、継続研究している。

(2) 研究の構想における活動内容

- ・E-タイムは毎日9分間、全学級で担任が指導する。内容は自作ビデオを使用したスキット学習。
- ・Talkingタイムは、毎日昼休み5,6年生が数名ずつ、ALTやボランティアとFree Talkを楽しむ。
- ・E-タイムLは週1回45分、スキットの応用、歌やゲームを行う。ALTやHRTによる指導。
- ・授業で培った英会話能力を、集会や保護者・地域へ公開している。
- ・小学校低学年「ふれる」
小学校中学年「なれる」
小学校高学年「したしむ」
中学校「できる」を目標に、「つかう」「わかる」のスパイラルによって到達を図っている。



(3) 公開授業参観

① E-タイム (全学級実施、1年3組参観)

スキット 「天気」

目標 【楽しむ】 天気を表す言い方にふれ 体全体を使ってコミュニケーションを楽しもうとする。

【聞く】 天気を表す言い方にふれ、内容を聞き取っている。

【話す】 天気を表す言い方にふれ、自分の伝えたいことを話している。

展開 あいさつ(0.5min)→歌(2min.)→DVD視聴(3min.)→チャンツ(1.5min.)→ゲーム(2min.)→振り返り(1min.)

○ 授業は展開が速く、DVDを見ながら、ALTの発音をまねることから始まる。

1回9分間ではあるが、毎日行われており、週ごとに活動内容が深まっていくので習得しやすい。子ども達も元気いっぱい英語での活動を楽しんでいた。

② Talking タイム

毎日昼休みに、5, 6年生が数名ずつで、ALTやボランティアとFree Talkを楽しむ。双六のようにサイコロを振って出た質問をALTが行い、子どもが答える。高学年になると、アルファベットを読める子も多く、応答を楽しんでいた。また、別なグループでは修学旅行の写真を見ながら、ボランティアの質問に答えていた。少人数のため、集中して英会話を楽しんでいた。

③ E-タイムL (7学級公開 1年、5年参観)

ア 研究主題との関連 (1年「好き・嫌い」)

英会話科として、英語を用いて自分の思いや考えを進んで伝え、コミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせるための指導や工夫改善。低学年においても、スキットを使ってできる活動で友だちと自分の考えを伝え合い、児童が楽しみながらコミュニケーションを取ることができるような配慮をしている。

イ ねらい

【楽しむ】 楽しく会話し進んで英語活動に参加しようとしている。

【聞く】 友だちが好きな野菜や嫌いな野菜を聞き取っている。

【話す】 “Do you like~?” “Yes, I do.” “No, I don’t.”を使って好きな野菜や嫌いな野菜について話している。

【英会話】 自分の思いや考えを伝え合おうとしている。

ウ 展開

1 あいさつ

2 “Vegetables Song”を楽しく歌う。

3 野菜の言い方を練習する。

4 “Joyful time”をする。 代表児童が野菜のカードを示し、他の児童が好きか嫌いかを予想したあとに、“Do you like?” “Yes,I do.”で答える。

5 “VEGETABLES”の本を読んでもらう。

6 ゲームをする。 ワークシートを見ながら“Do you like~?” “Yes,~” No,~”のサインをもらう。

7 “Take Me Out to the Ball Game”を歌いながら前に集まる。

8 終わりのあいさつ

エ 児童の様子

英語を使って楽しくコミュニケーションを図っていた。相手の話を聞いたり自分の思いや考えを伝えたりする活動ができるためには、学級づくりがベースであり、一人一人がのびのびと自己表現できる人間関係でなければならない。また、基本的な学習習慣が身に付いていることで交流活動ができる。担任やJTEの笑顔での指導が印象的であった。また、それまでの積み重ねが生かされた授業であった。

(4) 感想

小学校における英語活動の教育課程への位置づけについて長い間研究を進め、「粕壁小方式」とまで言われる英語教育の方法を創造してきた、研究実践を参観することができ、その特色ある教育課程や指導方法、指導教材、評価の方法について、多くを学ぶことができた。さらに、小学校・中学校の系統的な英語教育課程や、小学校と中学校の接続を視野に入れた英語科の指導内容や方法、評価についても自校の実態に合った実践を心がけていきたい。

また、自分の思いや考えを持たなければ英語で伝えると言うことは難しく、日頃から自分の思いや考えを持ち、コミュニケーションを図ろうとする児童を育てたい。そのための日々の学級経営や授業実践に取り組みたい。